

ドラえものの長い一日

京都大学工学部 1 回生 津田龍平

はじめに

「ドラえもん誕生日スペシャル」は 2006 年から始まり、毎年ドラえもんの誕生日である 9 月 3 日に近い放送日に放送される。もちろん通常のエピソードも笑いあり涙ありの良作であるが、誕生日スペシャルの作品はどれも往々にして感動ストーリー仕立てになっている。どの年も見ごたえがあるので視聴を勧める。充実した 1 時間になるに違いない。さて、今回は「おすすめの一品」を紹介するということであるが、またこれが難しい。ただでさえ膨大な数の良作から紹介する作品をたった一つだけしか選べないのは少し無念であるが…今回は 2009 年放送「ドラえもんの長い一日」を紹介しよう。

あらすじ

「問題はこの赤い鼻なんだよなあ。赤いビー玉があれば完成するんだけどなあ」
何かを思い悩む様子ののび太。今日はドラえもんの誕生日だが、製作中のプレゼントが未完成のため、まだドラえもんに渡せないようだ。部屋の中でビー玉がないかを探すのび太は、よろけた拍子にドラえもんが食べようとしていたどら焼きをつぶしてしまう。ドラえもんとのび太は大喧嘩してしまい怒ったドラえもんは未来へ帰ってしまうが、その様子を見ていたドラミはドラえもんがちょうど定期健診を受けなければいけないことを思い出して病院へ連れていく。一方、22 世紀の凶悪ロボットであるデンジャは銀行強盗で指名手配を受けるも、逃走中に事故を起こして病院に搬送される。

その後病院の一室で、入れ替えロープでデンジャとドラえもんは入れ替わってしまった。ドラえもんと入れ替わったデンジャは 21 世紀に向かい、デンジャと入れ替わったドラえもんは病院から逃げ出し元に戻る方法を模索して奮闘する。行く先々で数々の困難が立ちはだかるドラえもんは元に戻ることができるのか。果たしてのび太は赤いビー玉を見つけてプレゼントを渡せるのか。

考察的な何か

中盤、がらくたの山の中見つけたタイムベルトで 21 世紀へ飛んだドラえもんは、夜にのび太を裏山に連れ去って同じくがらくたの中で見つけた赤いビー玉を渡すのだが、そこでドラえもんがいかに良い奴かを語ってみせるのび太に涙する。それを見て「ねえ、君まさか…」と聞くのび太。この後はデンジャと決闘し、やがて 22 世紀の警察に囲まれてしまう。しかし包囲されたドラえもん(外見はデンジャ)の方へ走っていったのび太がこう告げるのである。

「大丈夫？ドラえもん。君、ドラえもんだろ？絶対、ドラえもんだろ？」

周囲が気づかない中、ただのび太だけがドラえもんがドラえもんであると見抜いたのだ。後にデ

ンジャはのび太に問いただす。

「どうしてわかったんだ」「だって、ドラえもんはドラえもんだから」

薄々気づいていたのであろう。実際のび太が異変に気付く場面はいくつか見られる。例えばどら焼きをつぶしたお詫びにとのび太はどら焼きを買ってきたのだが、甘いものが苦手なデンジャは一口手を付けただけで、そのままスネ夫とジャイアンに誘われ野球に行ってしまう。本来であればどら焼きを平らげてしまうはずのドラえもんが、である。さらにのび太はデンジャがバットを振るい野球にやる気を出す様子を見て、ドラえもんがそんなに野球を好きだったかと疑問を浮かべる。

“The best way to find out if you can trust somebody is to trust them.(誰かを信頼できるかを試すのに一番いい方法は、彼らを信頼してみることだ)”とはアメリカの小説家、ヘミングウェイの言葉であるが、まさにのび太のドラえもんと友情が信頼を生み、だからこそそのび太は外面を打ち破ってその正体を見破ることができたのであろう。ドラえもん視点からでもそれが読み取れる。先に述べた通りのび太を裏山に連れ出した後、ただビー玉を渡すだけで何かほかのアクションを起こしたりしていない。のび太がきっと気づいてくれるという確信の表れだろう。

さらに作中にはのび太自身の優しさがあふれる場面も見られる。物語中盤で、タイムベルトを使って21世紀に何とか降り立ったドラえもんに空気砲を放ちまくるデンジャを止めている。本来なら脅威を及ぼさずの存在(無論この時の中身はドラえもんだが、のび太はまだ気づいていない)に同情を抱くのは彼らしいと言える。大長編『のび太と鉄人兵団』の中でもリルルに対してショックガン撃たなかった場面からもそう捉えられるが、これは何もドラえもんと暮らしているからロボットに優しいのではなく、元々何に対しても優しさをもって接する彼の性格なのではないか。冒頭の喧嘩でドラえもんを「ポンコツ青狸」と貶しながらもいざとなったときの優しさをうかがうことができる。

他にも、デンジャが自身のことを「何の目的もなくただ世の中を騒がせてやれという最低の野郎だ」と表現したり、最後入れ替えロープで元に戻る際に「お前が羨ましいぜ」と言ったりするが、彼はもしかすると何か別の生き方に対する憧れが生じていたのかもしれない。

この物語はドラえもんが奮闘するだけでなくデンジャがのび太やドラえもんの友人、家族との関わりの中でドラえもんが普段過ごす世界の奥行きを感じ取れる。まだ見ていない方はぜひ、もう見た方ももう一度視聴をおすすめする。

以下独り言。

ドラえもんと入れ替わったデンジャのかっこよさは異常だと思う。特に最後のほうで「さっさと捕まえに來い!」と言って窓からタケコプターで裏山へ飛んでいくあの描写。あんなに旋風が巻き起こるんだと思った。その後のドラえもん VS デンジャのバトルも緊迫感あふれる場面で良かった。中盤の河川敷でのバトルも二丁空気砲で十分画になっていたが、空気砲三連で思いつきぶっ放すところは何度見ても飽きない。それからケーブ(警部)の声優が大塚芳忠さん

だったのは個人的にポイントが高い。おっと、独り言はこの辺にしておくか…とりあえず見て損はないので是非是非。

